

しまなみだより

第12号 2019年3月発行



陽春のみぎり、皆様におかれましては健やかに
お過ごしのことと存じます。平素より本学の教育
にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
3月19日の平成最後の卒業式で、60名の4
年生が本学を巣立ちました。これからは、自ら選
んだ道で活躍してくれることでしょう。今年は元
号も変わることから、教員一同決意を新たにしてい
るところです。

今号では、平成30年度後期の学生生活の様子を
お知らせします。



(看護学科広報係)



平成30年度 国際交流事業

「オーストラリア・キャンベラ大学短期研修」

今年度は看護学科2人と理学療法学科3人(全員3年生)が、1週間のオーストラリア・キャンベラ大学短期研修に参加しました。看護学生はキャンベラ大学の講義や演習を受講し、病院や高齢者施設、特別支援学級の視察も行いました。また日本の看護や本学について英語でキャンベラ大学関係者にプレゼンを行いました。今回の研修では、昨年度本学に短期研修に来られたキャンベラ大学の看護学生や教員が中心となってお世話をさせていただきました。歓迎のランチ会やホームパーティーでは現地の方々との交流もできました。オーストラリア先住民アボリジニの人たちの歴史や、戦争の歴史にもふれ平和の大切さを再確認できたようです。参加した看護学生は「視野が広がり、自分の成長を感じた」と述べ、「今度は、キャンベラ大学の学生を本学に迎えてさらに交流を深めたい」という思いを強めました。看護学科はこれからも国際交流を通して学生の学びを応援したいと考えています。

(岡田麻里・日高陵好)



学内施設見学



ウェルカム・ランチ・パーティー



看護演習への参加



グループワークへの参加



ホームパーティー

1～4年生の授業紹介

1年生 成人看護学概論

科学技術の発展は私たちの生活を安全で、便利にし、豊かさをもたらしてくれます。一方で、多大なエネルギー浪費に伴う地球環境の悪化や生産性重視の社会構造は、人の健康状態に影響を及ぼしていることも事実です。成人看護学概論では、このような時代を生きる大人の健康を多角的にとらえ、複雑で多様性を増している健康状況や健康生活に関する基礎的知識を学修します。生涯発達論や他者との相互性、また生活や仕事といった概念に基づいて、イメージしやすい事例を設定し、大人の健康と生活を理論的に理解することを目指しています。また、医療制度改革・医療システムの変革に伴い、看護師の役割は拡大していることから、あらゆる健康問題に対応するための看護アプローチの考え方や方法を学ぶことに重点を置いています。さらに、保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、大人が最適な健康状態を維持するために、最新のデータや情報から専門知識に基づいた提案ができる看護師の基盤づくりをしています。

(岡田淳子)



授業風景

2年生 精神看護学概論

この科目は、必修科目で2年次生後期に受講することになります。授業では、精神看護に必要な法律や地域社会における精神保健について、ライフサイクルと生活の場の視点から学び、地域精神保健活動について理解を深める機会になります。また、患者・家族および看護師自身の精神保健について学びます。総合病院に入院している身体疾患患者の心の問題を支援するリエゾン精神看護について、グループワークを通して学修を深めていきます。精神看護をとりまく環境も、入院から在宅へと移行し変化しています。社会のニーズに対応できる最新の精神看護学を学生のみなさまに提供できるように講義をしていきたいと思っています。

(井上誠)



外部講師を迎えて 最新の精神訪問看護についての講義風景

3年生 母性看護実習

母性看護では周産期看護を中心に、不妊看護や地域での子育て支援も含めて学修する実習を行っています。今年度は2019年1月11日から3月1日までの期間、3年生が4～6名のチームでそれぞれ2週間の実習を終了しました。産科病棟では産後のお母さんや生まれたばかりの赤ちゃんの看護ケアを行いました。分娩を学修した学生は出産の痛みを耐えている産婦さんを励ましながら、赤ちゃんの誕生に感動し、「自身の母親に感謝の気持ちを伝えたい」と言っていました。さらに産科外来、新生児集中治療室(NICU)、不妊外来、助産院での実習を行い、周産期における看護支援を総合的に学びました。

(日高陵好・伊藤良子)



胎児のモニタリング法について
病棟助産師から説明を受けているところ

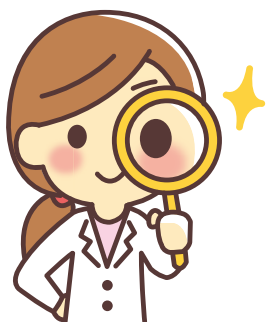


新生児の清潔ケアとして
沐浴を行っているところ

4年生 卒業研究

「卒業研究」では、看護学およびその関連領域における研究課題について、研究計画立案、文献検索、実験・調査、論文作成、発表・報告等を実際に行うことを通して、一連の看護研究の過程を学びます。学生自身で興味・関心のある研究課題を決め、臨地実習や講義、就職活動や進学・国家試験対策と同時進行しながら、卒業研究を進めています。学生は、研究の時間を担当教員と個別に調整し、指導や助言を得ながら主体的に研究活動を行います。そしてその成果は、卒業研究論文としてまとめ、12月に学生主体で運営する卒業研究報告会で発表します。このように看護研究の過程を学ぶことで、新しい知識・技術を修得しようとする意志と、自ら積極的に取り組む姿勢を身につけ、卒業後もこれからの看護のさらなる発展を促せるような看護研究の継続を期待しています。

(池田ひろみ)



高齢者のフレイル（虚弱）評価のための身体計測をしている場面



手浴のリラクゼーション効果について実験している場面

▶▶▶ TOPICS ◀◀◀

大学祭「浮城祭」



平成最後の大学祭は天候にも恵まれました。

平成30年11月24日（土）・25日（日）の2日間、三原キャンパスの大学祭「浮城祭」が行われました。大学行事の都合で例年より遅い開催となりましたが、暖冬の影響もあって比較的過ごしやすい気温でした。

看護学科では、実習中の3年生を除いた1年生、2年生、4年生が個性的な模擬店を出店しました。4年生にもなると、看板の作成にも力が入っています。ステージでの発表も、みんなを楽しませてくれます。カラオケ大会では、看護学科の学生がノリノリのダンスと歌で、会場を盛り上げていました。大学祭は、一生懸命準備して臨む晴れの舞台上、友人たちと楽しい時間を過ごす貴重なひとときです。年に1度のお祭りを、学生だけでなく来場者も楽しんでいます。

(山中道代)



カラオケ大会で歌って踊る看護学科の男子学生。会場也大いに盛り上がっていました。



4年生が出店した模擬店の看板。手が込んだ力作です。



パンフレットのデザインもなかなかのものです。

サークル紹介

バレーボールサークルは、毎週火・金曜日の18時30分～21時に活動しています。メンバーは40人程度で、初心者も経験者も関係なく楽しくバレーしています！活動は、練習試合の他、島根県でのキャンプや鳥取県での合宿などがあります。毎日笑顔が絶えないサークルです！

(学生：清弘珠愛)



教員の紹介

看護学科 講師 三宅由希子



皮膚のずれや摩擦を軽減する
マルチグローブをつけて

基礎看護学の三宅由希子です。私は広島県立保健福祉短期大学(県立広島大学の前身)を卒業し、病院での看護師経験を経て、母校である県立広島大学に教員として戻ってきました。今は広島市内からJRを乗り継ぎ、三原駅から大学までは(体力の衰えを感じる日々ですが)学生に負けじと自転車を漕いで通勤しています。

私も学生時代は「本当に看護師になれるだろうか…」、看護師1年目には「続けていけるだろうか…」と不安に思った時期もあり、今の学生や卒業生が同じように悩んでいる姿を見ると、私もそうだったなと懐かしく思い返すことがあります。課題や実習、就職活動と大変なことも多いと思いますが、輝かしい未来に向かって、いろいろな経験を重ねて成長してもらいたいと思います。学生の成長の一助となれるよう、これまでの経験や研究成果を活かし、看護の面白さを伝えていきたいと思っています。



卒業研究メンバーとともに



演習の様子



看護学科「学生生活通信」についてご意見、ご感想などお寄せ下さい。
〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
TEL: 0848-60-1120 (代表) FAX: 0848-60-1134 (代表)
E-mail: nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
URL: <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/nursing/>
発行: 県立広島大学保健福祉学部看護学科 広報係



県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

